

# 学校関係者評価報告書

愛媛県立南宇和高等学校  
学 校 番 号 ( 4 9 )

評 価 実 施 日		平成27年2月2日 (月)	
委 員	氏 名	所 属 等	備 考
	松 田 守 隆	元中学校長	
	藤 田 有 紀	保護者代表 (PTA副会長)	
	木 村 勝 彦	地域代表 (前産直市会長)	
	森 岡 眞由美	愛南町連合婦人会長	
	尾 崎 道 広	愛南町立御荘中学校長	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>1 教育方針・重点目標 教育目標、重点目標とも堅実な設定である。生徒、保護者と共に、充実した学校生活が実現できるよう取り組んでほしい。分かりやすい教育目標と、その具現化は適切である。重点目標達成のために南高マニフェストがあり、それぞれに掲げられた数値目標から教職員の意欲が感じられる。 全教職員が生徒や保護者等に、学校の経営方針や重点目標を具体的に生徒に語るようになってほしい。</p> <p>2 学習指導 部活動が終わった後も、学習指導が行われており、生徒の「やる気」をサポートする取組がなされている。農業科では27年度入学生から教育課程の変更が行われ、新たな視点での農業教育に大変期待している。 アンケートや評価を見ると「家庭学習時間の確保」「分かる授業」が課題である。生徒と向き合ったり、教材研究を深めたりする努力が教師に必要である。</p> <p>3 生徒指導 運動部の生徒が中心となり元気でさわやかな挨拶が行われている。全校皆勤率も非常に高い。部活動では多くの生徒がインターハイに出場しており、生徒の可能性を引き出す指導を継続してほしい。今後生徒数が減少する中で、部の統廃合が進められるかもしれないが、生徒達が満足できる改革をお願いしたい。 登下校中に携帯電話等の画面を見ながら歩いている生徒を見掛けるが、安全面での注意が必要である。</p>	<p>「真知」「闊達」「創造」の校訓の下、「使命、情熱、思いやり」を体現し、生徒の学力と個性を伸ばしながら、学校の活性化、地域の活性化に結び付けたい。重点目標やマニフェストの内容を生徒・保護者に周知徹底し、目標達成に向けての意識を高めたい。 今年度の現状を分析し、課題解決のための具体的目標を、教職員一人一人が設定していきたい。</p> <p>教科会をこれまで以上に機能させ、教科指導の充実と確かな学力の定着を実践していきたい。 家庭学習時間の確保や学習意欲の向上に向けて個人面接を行い、生徒一人一人に目標達成のためにやるべき事を認識させたい。また、生徒が学習内容に興味・関心を持てるように授業改善を進めたい。</p> <p>基本的な生活習慣の確立を目指し、生徒会活動やホームルーム活動を充実させるとともに、家庭や地域との連携を密にした生徒指導を進めていきたい。部活動においては、生徒の実態を考慮しながら、満足度の高い学校生活が送れるものとしたい。 携帯電話等の使用については、取扱いのモラルを徹底できるよう、PTA総会、理事会等を通して、保護者に対して積極的に協力を求めていきたい。</p>

#### 4 進路指導

就職、進学共に成果を上げており、進路指導の充実が感じられる。就職者に対しては、就職後やる気を維持して継続して勤めることが大切であり、安易な選択とならないように仕事内容を十分に理解させてほしい。進学については、生徒数が減少し習熟度に差がある状況下、個別指導が重要と思われる。あらゆる角度からの情報収集も含め、進学後の先を見据えた指導をお願いしたい。

#### 5 学校運営への提言

町内での生徒の様子を見ると、健全であり良い状況にあると推察する。本校は地理的条件から、地域との結び付きや地域から学校への関心が高い。郡内唯一の高校であるが、他校に進学する中学生がいるのは残念である。地域住民、行政を巻き込んだ学校づくりが必要である。

様々な活動にはP D C Aサイクルを取り入れることが重要であると言われている。目標達成のための方策、具体的な取組を明確にする必要がある。

#### 6 その他

地域では、高齢者や障害者、防災、人権等様々な課題があり、それらに関係する講演会や勉強会が開催されている。高校生の中には、愛南町をPRするグループと一緒に活動したり、イベントに参加したりする生徒もいる。こうした、地域住民と共に活動する体験や地域に貢献する取組を増やすことにより、人とのつながりや自己有用感を育ててほしい。

生徒の発達段階や実態に応じた、計画的・組織的な進路指導を行い、進路志望実現について良い結果が現れた。生徒一人一人の実態を的確に分析し、適性・能力を伸ばしながら進路実現を図りたい。今後も、生徒の主体的な自己理解と教師の生徒理解を基に、生徒自らが進路を選択・決定できるよう指導していきたい。

英語、数学を中心とした学習指導及び部活動における小・中・高の連携を更に進め、お互いの学校に対する関心を高め、信頼関係を深めたい。

各課及び学年において、自己評価の分析を行い、現状に至る要因を把握し、学校の活性化に繋がる具体的方策を考えたい。そのために、目標の中に数値目標を掲げるとともに、生徒の人的成長を図り、豊かな人間性を育む項目を取り入れたい。

地域のイベントを生徒に紹介し、地域行事への生徒の自主的な参加を進めるとともに、生徒が主体となった公開講座を実施し本校生の良さや農業科の新しい教育内容を地域の方に伝えたい。

今後も、開かれた学校づくりを進め、地域に信頼され、地域社会に貢献する学校づくりを目指したい。